小仙丈沢～仙丈岳

記　Ｔ野

2016年7月30日～31日
メンバー：　Ｔ野　Ｓ藤　Ｓ口

■写真　　2000m台地は北岳を望み絶好のロケーション。

私にとって日本の3000m峰でまだ登っていない山があと2つ。ひとつは木曽の御嶽山、ここは噴火後、行きたくてもまだ山頂までは行くことができない。そしてもう一つがここ仙丈岳だ。聞くところによると小仙丈沢は小難しい滝は全くなく、少し単調だが、小仙丈岳カールに直接突き上げる遡行感のよい明るい渓らしい。最近だんだん知られるようになってきてネットを見ると多数の記録がある。ちょこっと覗いて見るとなるほど！！私の初仙丈にもってこいのルートではないか！！早速計画して参加者を集ったところ、嬉しいことにＳ藤さん・Ｓ口さんのお二人がエントリーしてくれた。

7/30

さて、詳しく調べてみると、朝発1泊でのんびり行けるので7/30朝発で計画。お二人とも、家が近いので自宅でピックアップして早朝5:15にＳ口宅を出発。少し渋滞もあったがほぼ問題なく芦安まで行く。芦安の駐車場はかなり混んでいるようで、だいぶ下にある小学校の近くにある空き地に車を止めるよう指示され、ここに車を止め準備をしているとタイミングよくジャンボタクシー登場！！すぐ準備すれば広河原まで行ってくれると言うので、慌てて準備してジャンボタクシーに乗り込む（¥1,200）。さらに広河原でも臨時のバスが上手くつかまり、めちゃくちゃ順調に入山地の野呂川出合まで行くことができた（¥580）。

本来の予定では12:45に歩き始める予定だったが、何と2時間以上早い10:12に出発。しかしここで、大変な忘れ物に気づいてしまう。「無くても行動には影響ないけど無いとスゴーく寂しいもの・・・。」そう、お酒を忘れてしまったのです。コンビニで購入するつもりだったのにすっかり抜け落ちてしまいました。コンビニに入る直前まで覚えていたのに・・・。

そんな時に限ってこの順調さが恨めしい。小仙丈沢出合まではゆっくり歩いて30分、そこから小1時間もあれば予定のテン場に着いてしまう。ゆっくり宴会が楽しめるまたとないチャンスなのに何たる失態だ。自分でも音をたてて魂が抜けていくのがわかった。ヒュー・・・。

小仙丈沢は最初のうちは記録にある通り、単調なゴーロの渓で倒木も多く快適とは言い難い。ただ、標高が2000m近いので、変な虫がいないのが有難い。淡々と登って行くと徐々に辺りが開けてきて5m滝を左壁から登れば，テン場予定の2000m台地だった。行く手には最初の大滝が望め、背後には名峰、北岳がせり上がり、薪は無尽蔵にあるという素晴らしいロケーションだ。嬉しいことに誰もいなかったので一番

良い場所にタープを張る。しかしまだ12:00だ。贅沢な話だが日差しが強く非常に暑い。焚き火なんてもっての外だ。たまらなくなって沢沿いの日陰に避難するとここは天然のクーラー、これは気持ちイイ。アァァ―ビールがあればなぁ～・・・。それでも、Ｓロさんが、私のあまりの落胆ぶりに可哀想だと思ったのか「一人で飲んでも・・・」といって自ら持参した貴重な少ないビールを分けてくれた。ご厚意に甘えて大事にいただく。有難うＳロさん！！

夕方、日が陰って涼しくなったので焚き火を着火。一発で燃え上がり雲間に見え隠れする北岳に一喜一憂しつつまずは恒例の枝豆、「枝豆といえばビール」イヤイヤ考えまい、枝豆はそれ自体美味しいのだ。続いて夏野菜たっぷりのカレー、「カレーといえばビール？」そんなことはない、カレー本来の味を楽しむには、ビールなど不要だ・・・。と無意味な葛藤を心の中で演じ全くの素面でおしゃべりを楽しみながら夜は更けて行ったのでした。

さぁ、明日が本番！！予報では不安定な天候を告げている。何とか半日晴れてくれよ、と天に願いつつ20:00に就寝。

7/31

3:00起床、祈りが通じて満天の星空！！Ｓ藤さんプロデュースの素麺を美味しくいただき5:09テン場を出発。昨日我々の後から来て少し上にタープを張っていた東京北稜山岳会の方達（以前に奥鬼怒の魚沢で一度遭遇しているパーティー）に「早いですねー！！」と声をかけられながら歩きだす。「だって今日は予報からいっても午前中勝負でしょう。」とばかりにゴーロを歩くこと約30分で昨日から見えていた2段30m大滝に到着。なかなか立派な滝だ。下段は右壁を容易に直登、上段は左岸を小さく巻き気味に登る。ここから渓はゴーロ状ながら小滝を次々に懸け徐々に楽しくなっていく。夢中になってどんどん登って行くとみるみる高度が上がり背後の鳳凰三山や北岳がせり上がって行く。イヤーこれぞアルプスの沢！！

最初の大滝からわずか10分ちょっとで4段30mの大滝がまたまた登場。これは素晴らしい！！小仙丈沢の主ともいえる滝だ。しかしこの滝の直登はちょっと難しそうだ。でもご安心あれ。右岸にこの滝と並行して枝沢の滝があってこちらは簡単に登れそうだ。それでも30m近い高さがあって岩がぬめっていて滑りやすいので念のためにロープを使用して登る。（小仙丈沢はところどころ岩が非常に滑りやすく注意が必要です。靴はラバーよりフエルト底の靴をお奨めします。）

■写真上　　最初に現れる2段20mの大滝。
■写真中　　小仙丈沢の主、4段40m滝。
■写真下　　明るく爽やかな遡行が続く。

上部の傾斜が急な場所に残置ハーケンがあるので難しくはないがここはロープを使用した方がいい。もちろん、高さがあるので万が一落ちればただでは済まない。30mロープいっぱいで滝上に登ればそこは穏やかな緑の台地で、ホタルブクロやタカネナダシコ、それによくわからない花があちこちに咲いていて気持ちが良い。ここでゆっくりと一本、渓は再び小滝とゴーロで面白いように高度を上げ、朝日が当たってますます明るい渓相になっていく。あちこちに咲く花々や背後の北岳や鳳凰三山に励まされながらどんどん高度を上げていくと、(簡単に書いたがこの3行で約2時間を費やす。)やがて傾斜が緩くなり上部の空が広がりカールが近いことが予感される。最後の二俣を右に行くと突然眼前に小仙丈岳カールが広がった。チングルマの穂が一面に広がり、時期が時期なら素晴らしい花園になっているであろう。今回はすでに花の時期が過ぎていて思っていたような花園はなかったが、登山道もなく、自分達だけの別天地には変わりがない。気がつくと背後には北岳の横に富士山の頭がポッカリと顔を出し、日本のＮＯ1とＮＯ2が惜しげもなくセッションを繰り広げている。そして正面はカールを囲むような仙丈岳の稜線！！イヤー贅沢な眺めだ。稜線には大勢の登山者が行き来しているのが確認できる。しかしここは我々だけの静寂な世界、何度も言うがここは確かに「別天地」だ。さて、カール底の居心地を充分に満喫したら、最後の仕上げとばかりにカール壁の標高差150mをよじ登る。最初はトリカブトやイワギキョウ・ハクサンフーローなどの花が咲く草付きを登るが、徐々に傾斜が増し、不安定な急なガレ場を登るようになる。ずり落ちそうなガレ場を慎重に足を置いて登って行くこと25分で稜線の登山道に這い上がる！！と同時に反対側の景色が開け、甲斐駒・鋸・八ヶ岳さらに遠くにうっすらと穂高連峰も確認できる。思った以上の天気に感謝だ！！しかし，登山道は人人人で凄い賑わいだ。ここに荷物をデポして我々は仙丈岳を目指すが、しばらく登ると砂糖の山に蟻が集るがごとくの山頂が顔を出す。登ったことのある山頂ならご辞退申し上げたい光景で、実際過去に3回登ったことのあるＳロさんはここでのんびりしたいということで、まだ登ったことのない私とそれに付き合ってくれたＳ藤さんでこの砂糖に集りに行く。山頂は、写真を撮るのに順番待ち・・・？？　でも初めての山頂なので真面目に並ぶ。5人くらい待ってようやく写真に収まり早々に下山開始。

■写真上　　別天地！！と呼ぶにふさわしい小仙丈岳カールに到着！！
■写真中　　日本のＮＯ１とＮＯ２（富士山・北岳）の競演。
■写真下　　ラッシュアワーの仙丈岳山頂。

正面に甲斐駒を見ながら北沢峠を目指す。途中で右手の小仙丈岳カールを見下ろすと、先程まであの静寂なカール底に身を置いていたことが信じられない。今はただ人の流れに身を任せて下るのみだ。順調に北沢峠まで下山して、天候に恵まれ素晴らしい景色も楽しめて全てが上手くいった山行だったが、北沢峠から芦安の交通事情に実は大きな核心があった。あとで調べてみるとこの区間の混雑は、結構有名なようでぎゅうぎゅう詰めのバスと長蛇の列、しかもいつ乗れるかわからない不充分な説明・・・ということで、行きとは対照的に帰りはさながら我慢比べ、まるで修行のようで、待ち時間を入れると芦安まで3時間を費やした。ここは場合によっては（特に混雑が予想される夏の週末や秋の連休など）多少遠回りになるが、入山地を乗り換えのない伊那側からにするのも一考だと思った。

■写真　仙丈岳バックに山ガールＳ口が夏山ジョイ！！

さて、芦安の温泉はジャンボタクシーのドライバーのお奨めの小学校の対面にある山渓荘で入浴。ここは￥400とリーズナブルでソープ・シャンプーともに完備。ドライバーの話では比較的空いているのでお湯もきれいだという。確かにお奨めの施設だった。また、食事は、白根ＩＣまでなかなか良い所がなく結局、ＩＣの近くのガストで済ます。帰路の高速は大月から25km以上の渋滞のため大月で一度下りて、以前に教えてもらったＩ崎ルートで渋滞を回避、比較的早い時間に帰京することができた。

■コースタイム
7/30
野呂川出合（10:12）～（10:45）小仙丈沢（11:00）～（11:34）5m滝～（12:00）2000m台地
7/31
2000m台地（5:07）～（5:29）2段30m大滝（5:40）～（5:56）4段30m大滝（6:30）～（8:35）小仙丈岳カール（9:10）～（9:34）稜線～（10:00）仙丈岳（10:10）～（12:50）北沢峠